

## 教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
クロダ ヒロシ 黒田 浩司	男	1960年	教授	人間文化学部人間文化学科 人間文化研究科臨床心理学専攻
取得学位称号	社会学修士	専門分野	臨床心理学	
学 歴	1979年	3月 岐阜県立大垣東高等学校卒業		
	1979年	4月 千葉大学人文学部人文学科心理学専攻入学		
	1983年	3月 千葉大学人文学部人文学科心理学専攻卒業		
	1983年	4月 慶応義塾大学大学院社会研究科社会学専攻修士課程入学		
	1985年	3月 慶応義塾大学大学院社会研究科社会学専攻修士課程修了		
	1985年	4月 慶応義塾大学大学院社会研究科社会学専攻博士課程入学		
	1989年	3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程単位修得退学		
実 務 経 験	1984年	4月 千葉県柏児童相談所嘱託判定員(1988年3月まで)		
	1988年	4月 青山学院大学生相談センターカウンセラー(1994年3月まで)		
	1988年	5月 国立千葉病院精神神経科嘱託臨床心理士(1994年3月まで)		
	1989年	4月 産能短期大学通信教育部非常勤講師(2005年3月まで)		
	1994年	4月 茨城大学人文学部専任講師(1997年3月まで)		
	1996年	4月 茨城県スクールカウンセラー(1999年3月まで)		
	1997年	4月 茨城大学人文学部助教授(2004年9月まで)		
	1998年	4月 みとカウンセリングルームどんぐりコーディネーター(現在に至る)		
	1998年	4月 みとカウンセリングルームどんぐりカウンセラー(2009年3月まで)		
	2004年	4月 放送大学茨城学習センター兼任講師(2009年3月まで)		
	2004年	4月 茨城大学大学院教育学研究科学校臨床専攻兼任(2009年3月まで)		
	2004年	4月 常磐大学大学院人間科学研究科非常勤講師(心理療法特論2009年3月まで)		
	2004年	10月 茨城大学人文学部教授(2009年3月まで)		
	2005年	2月 英国Tavistock Clinic 思春期部門留学(文部科学省平成16年度海外先進教育実践による派遣 2006年2月まで)		
	2009年	4月 土浦協同病院非常勤臨床心理士(2016年3月まで)		
	2009年	4月 茨城大学大学院教育学研究科学校臨床専攻非常勤講師(2016年3月まで)		
	2009年	4月 山梨英和大学人間文化学部教授		
2009年	4月 山梨英和大学大学院人間文化研究科兼任			
2018年	5月 放送大学大学院臨床心理学専攻兼任教授(修士論文研究担当2020年3月まで)			
受賞歴	2007年	3月 茨城大学2006年度推奨授業受賞 教養科目「こころの科学」		
所 属 学 会	1986年	4月 日本心理臨床学会(現在にいたる)		
	1997年	4月 日本ロールシャッハ学会(現在にいたる)		
	2000年	4月 包括システムによる日本ロールシャッハ学会(現在にいたる)		
	2001年	4月 日本精神分析学会(現在にいたる)		
特 免 資 許 許 格 等 ・ ・ ・	1995年	4月 臨床心理士(日本臨床心理士資格認定協会 No04221)		
e-mail	h.kuroda@yamanashi-eiwa.ac.jp			

## 目 次

### ○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

### ○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

### ○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

### ○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

### ○添付資料

略

## 教育業績

教育理念、方針、方法	<p>大学教育において学問の基本を学ぶことは、その学問の理念や緒理論を理解するだけでなく、対象を多様な観点から考察しうる学問的態度を見につけることが肝要と考えられる。この学問的な態度には批判的な観点も同時に持ちつつ、机上の論理にならないように現実の事象や実際の場面とかかわることが含まれ、これが実践的な学問的能力となり、知識および良識ある社会人の育成につながるものとする。</p> <p>教養科目、専門科目、大学院科目のすべての領域において、この基本的な理念や諸理論と実際的な問題をつなぎ、授業の中で主体的考える機会を多く取り入れておる。教養科目においては心理学の基本的な実験や、心理テスト、カウンセリングの実習を取り入れ、なおかつ精神障害者に対する偏見については課題を出し、実践を通して考察をすることを求めている。受講生が心理学や精神病の現実を知り、社会の様々な事象を心理学的に考察することの面白さを体験できるように心がけている。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>a. 大学における精神障害に関する心理教育の試み 大学の教養科目において、偏見の少ない精神障害に対する正しい知識を習得してもらうために、受講生自身が心理教育を受けるだけでなく、最低2名の周囲の人(家族、友人など)に心理教育をおこなう実践を求め、その成果をレポート課題として提出を求めた。教室で受身的に聞くだけでなく、自らが心理教育活動に参加することによりこの問題に対する積極的な態度がより培われた。</p> <p>また、学部専門科目においてはその授業の中で、精神病院デイケアとの交流会や作業所ボランティアなどに学生に積極的に関与させ、精神障害を抱えている人との実際のかかわりを通して、この問題を深く考察されている。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等</p> <p>a.黒田浩司”臨床心理アセスメント(2)知能検査と質問紙法”、”臨床心理アセスメント(3)投映法”、”コミュニティ援助(1)危機介入とコンサルテーション”「臨床心理学概説」馬場禮子(編著)p67-77、p78-88、p140-149、放送大学教育振興会、1999/2003</p> <p>b.黒田浩司”施行法・記号化について——片口法とその修正点”、”ケース5 精神病水準の現れ①——反応継起がある程度理解できる事例”「力動的心理査定—ロールシャッハ法の継起分析を中心に」馬場禮子(編著)p34-74、p283-311、岩崎学術出版社、2017</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p> <p>黒田浩司 茨城大学2006年度表彰授業報告</p>
担当授業科目	<p>2022年度</p> <p>心理的アセスメント、心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ、ゼミナール、地域課題研究、高齢者の心理と健康、インターンシップ(CCRC)、専門ゼミナール、卒業研究 (以上学部)</p> <p>投映法特論、臨床心理査定演習、臨床心理実習、臨床心理事例研究、修士論文 (以上大学院)</p>
シラバスの代表的	<p>授業の方針としてはそれが講義であっても、演習であっても、授業の中に実習をできるだけ取り入れ、学生自身が深く問題に関与し、積極的に取り組むように努力している。そのためにかなりボリュームのある資料を用意し、受講生の提出したデータを授業の中でもちいるようにしている。卒業論文研究につながるようにレポートとして提出するように求めている。</p>
教育活動改善	<p>a. 教養教育科目人文分野専門部会長(2006年～2008年度、茨城大学) 茨城大学全学の人文分野の教養教育科目の専門部会長として授業の質を良くするために授業アンケートやFD研修会、シンポジウム、シラバス改善のための点検評価、などをおこなった。</p> <p>b. 山梨英和大学FD推進委員(2009年～2015年度) FD推進委員として、研究会の講師を務め、FD研修会の企画、開催、記録・報告などをおこなった。特に2014年度からはFD/SD推進委委員長(2015年度は大学院FD委員長も務める)として、FD/SD研修会を積極的に企画し、講師・司会も務めている。</p>

教育能力に対する評価	<p>(1) 学生による授業評価</p> <p>授業への全体的評価(授業アンケートより):興味深く役に立つ資料が多く配布され、心理臨床や社会の現場の問題が授業の中でプレゼンテーションされることに対して学生は高く評価していた。</p> <p>精神障害の心理教育に関する課題が授業の中で課せられることについては負担が大きいと記述する学生も見られたが、自らが参与することでこのような問題の核心に触れたように感じる受講生も少なくなく、受講生の積極的にものごとに参加する姿勢や自己評価が高まった印象を受けている。</p> <p>改善してほしい点:受講生の多くが提出したレポートについてフィードバックを欲しいと希望していたが、すべてにコメントをつけて返却することができず、今後改善が必要であると思われる。現在は授業の最後の時間にいくつかのレポートについてコメントし、代表的な質問に対してコメントを返しているのみとなっている。また、試験をおこなう科目についてはいくつかの科目で試験後の授業の中で問題の意図と解答例を解説しているが、受講生からは「どのように解答すれば良いかの参考になり、とても勉強になった」との評価が得られており、今後はなるべくすべての科目で実践してゆきたいと考えている。</p> <p>(2) 同僚教員等による授業評価</p> <p>現在同僚による授業評価はおこなっていない、今後の課題である。</p>
------------	--

### 研究業績

研究の特徴	<p>心理臨床におけるアセスメントと臨床心理学的地域援助が主な研究テーマになっている。アセスメントに関しては投映法のロールシャッハテスト、およびSCTをもちいての、クライアントの内面を精神力動的にアセスメントする技法について研究を継続しており、境界性人格、非行少年、発達障害者に関して多数の学会発表がある。</p> <p>臨床心理学的地域援助に関しては、精神障害に関する心理教育、思春期・青年期の臨床心理的問題の地域援助、地域がんセンターにおける他職種と心理臨床家の協働に関する研究を継続している。思春期・青年期の臨床心理学的問題の地域援助については、このテーマに関して1年間英国Tavistock Clinic思春期部門への留学経験があり、その後も毎年Tavistock Clinicを訪問して、英国の研究者との交流を続け、ロンドンでのアウトリーチ実践について日本での応用の可能性を探っている。</p>
研究経歴	<p>2015年 山梨英和大学にて効果的なサービスラーニングにおけるアクティブラーニングに関する研究(現在まで)</p> <p>2015年 地域におけるCCRCの展開と多文化共生コミュニティの創生に関する研究(現在まで)</p> <p>2014年 投映法心理検査における対象関係のアセスメントに関する研究(現在まで)</p> <p>2010年 山梨英和大学にて臨床心理士の効果的な教育訓練システムについて従事(現在まで)</p> <p>2005年 茨城大学にて授業を通じての精神障害や発達障害に関する心理教育の実践とその効果の測定の研究に従事(現在まで)</p> <p>2004年 地域がんセンターにおける臨床心理と他職種の効果的なコラボレーションに関する研究(現在まで)</p> <p>2004年 思春期・青年期の心理的問題に対する効果的な地域支援に関する研究(現在まで)</p> <p>1999年 投映法心理検査による心理臨床アセスメントに関する研究(現在まで)</p>
研究実績	<p>(1) 著書</p> <p>1. 黒田浩司”施行法・記号化について——片口法とその修正点”、”ケース5 精神病水準の現れ①——反応継起がある程度理解できる事例”「力動的的心理査定—ロールシャッハ法の継起分析を中心に」馬場禮子(編著)p34-74、p283-311、岩崎学術出版社、2017</p> <p>2. 黒田浩司”見立ての困難事例を心理アセスメントから理解する:SCT・描画法による総合的検討”「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際:クライアントの理解と支援のために」高橋靖恵(編著)p23-45、金子書房、2014</p> <p>3. 黒田浩司”SCT”「投映法研究の基礎講座」津川律子(編著)p139-152.遠見書房、2012</p> <p>4. 黒田浩司”現代の精神分析1-自我心理学の立場による精神分析的療法”「やさしく学べる心理療法の実践」窪内節子(編著)p1-22.培風館、2012</p>

5. 黒田浩司“はじめての人のための「学びのガイドライン”、“大学院修了後のスーパーヴィジョンの体験から”「臨床心理士の基礎研修」日本臨床心理士会(編)p5-17、p188-191.創元社、2009
6. 黒田浩司“コンサルテーションに役立った例(妄想反応)”、“ひきこもり青年の内面理解(分裂的性性格)”、“SCT(文章完成法)”、“WAI(Who am I)”、“Barrier and Penetration Scales”、“クーパーの防衛尺”「心理査定実践ハンドブック」氏原寛・岡堂哲雄・亀口憲治・西村洲衛男・馬場禮子・松島恭子(編)p34-37、p38-41、p231-235、p364-368、p379-382、p388-392.創元社、2006
7. 黒田浩司“臨床心理アセスメント(2)知能検査と質問紙法”“臨床心理アセスメント(3)投映法”“コミュニティ援助(1)危機介入とコンサルテーション”「臨床心理学概説」馬場禮子(編著)p67-77、p78-88、p1140-149、放送大学教育振興会、1999/2003
8. 黒田浩司・馬場禮子“ロールシャッハ・テスト”「臨床心理学大系第6巻人格の理解②」安香宏・大塚義孝・村瀬孝雄(編)、p25-51、金子書房、1992.
9. 黒田浩司・山本和郎“コンサルテーション”「メンタルヘルスハンドブック」上里一郎・飯田眞・内山喜久雄・小林重雄・筒井末春(監修)56-6、同朋舎、1989
- (2)学術論文(最新のものから)
1. 黒田浩司:”ロールシャッハ法において立体的に見る反応について”『山梨英和大学紀要』第20号、pp30-43,2021.
2. Yukie ITO and Hiroshi KURODA:Introduction to the Baba Method. Journal of the Japanese Society for the Rorschach and Projective Method” 26-s, pp51-55, 2022.
3. 伊藤幸江・黒田浩司:”馬場法の紹介”『ロールシャッハ法研究:日本ロールシャッハ学会25周年記念特別号』第26巻S号、pp21-25,2022.
4. 黒田浩司:”心理検査におけるサイエンスとアート:有用な心理検査所見を構成するサイエンスとアート、ロールシャッハ法を中心に”『山梨英和大学紀要』第18号、pp40-57,2020.
5. 黒田浩司:”やまなし未来創造教育プログラムCCRC コースの取り組みの現状と課題”『山梨英和大学紀要』第17号、pp53-64,2019.
6. 黒田浩司:”SCT(Sentence Completion Test:文章完成法)の臨床的活用について”『山梨英和大学紀要』第16号、pp44-64,2018.
7. 高橋昇・黒田浩司・小海宏之・高橋靖恵・中原睦美:”これからの心理アセスメント教育を考える:第21回大会 教育・研修委員会企画ミニシンポジウム”『ロールシャッハ法研究』第22巻、pp.54-63,2018.
8. 黒田浩司:”山梨におけるCCRC の可能性と課題”『山梨英和大学紀要』第16号、pp65-77,2018.
9. 黒田浩司:”すべての心理職が心理検査にできるというのは幻想である”こころの科学 第187号 pp12-14、2015.
10. 黒田浩司:”神田論文へのコメント—クライアントの不安から理解できること”岐阜大学心理教育相談研究 第12号 pp12-14、2013.
11. 黒田浩司:”境界パーソナリティのロールシャッハ反応:過剰病理化か、深い解釈か”『ロールシャッハ法研究』第15巻、pp.26-29,2012.
12. 黒田浩司:”医療スタッフ・職員に癒しが生じるとき”『癒しの環境』(癒しの環境研究会), Vol.17,p.78-80,2012.
13. 黒田浩司:”境界性人格のロールシャッハ反応:過剰病理化か、深い解釈か”『山梨英和大学心理臨床センター紀要』,Vol.7,p.6-11,2011.
14. 黒田浩司”看護師の自己評価とプロ意識——臨床心理士からみた看護師のストレスと悩み——”『看護管理』、第18巻、第1号、p20-24.2008.
15. 黒田浩司”コミュニティベースの臨床心理学的援助の新しい可能性”茨城大学人文学部紀要『人文コミュニケーション学科論集』、第1号、p23-39,2006

研究実績	<p>16. 黒田浩司“ロールシャッハ・テストにおける力動的理解の現在”『臨床心理学』、第5巻第29号、P621-627.2005.</p> <p>など</p> <p>(3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)</p> <p>a. Hiroshi Kuroda The Rorschach response of Borderline Personalities. Symposium:An Effect of Psychopathological Assessment in the Rorschach. The 20th Coference of International Society of the Rorschach and Projective Techniques. In Tokyo,Japan,2011.</p> <p>b. Chair Person for the Lecture:Suicide Prevention by Dr. Thomas Shaffer. The 20th Conference of International Scoiety of the Rorschach and Projective Techniques. In Tokyo,Japan,2011.</p> <p>c. Hiroshi Kuroda “W Face Response on the Rorschach Test. Tthe 19th conference of International Society of the Rorschach and Projective Techniques.in Lueven,Belgium 2008.</p> <p>d. 学術雑誌「ロールシャッハ法研究」編集協力委員(2011年度、2013年度、2014年度、2016年度、2018年度、2019年度)</p> <p>e. 学術雑誌「心理臨床学研究」編集協力委員(2014年度、2012年度、2011年度、2010年度、および2009年度)</p> <p>f. 学術雑誌「包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌」編集委員(2006年～2017年より)</p> <p>g. 学術雑誌「Rorschachiana」Editial Borad. (2004年～2017年)</p> <p>h. 学術雑誌「ロールシャッハ法研究」編集委員(2021年～)</p>
	競争的資金採択課題
学会等発表・役員参加	<p>2022年 7月 Tomoko Muramatsu, Hiroshi Kuroda, Hiroko Sasaki, Satoru Watanabe and Munechika Ito. THE HISTORY AND THE DEVELOPMENT OF THE RORSCHACH IN JAPAN. ISR 23rd Congress of the International Society of the Rorschach and Projective Methods, Geneva Switzerland, July 12th 2022. ABSTRACT BOOK, p10.</p> <p>2022年 7月 Hiroshi Kuroda, Yukie Ito, Kentaro Hitomi, Satoshi Yoshimura, Keigo Horie, Satoko Yamada and Yui Sato. THE PSYCHOANALYTIC INTERPRETATION AND THE APPLICATION OF THE RORSCHACH BY BABA METHOD. 1.THE PRINCIPLE AND THE PROCEDURE. ISR 23rd Congress of the International Society of the Rorschach and Projective Methods, Geneva Switzerland, July 12th 2022. ABSTRACT BOOK, p85.</p> <p>2022年 7月 Kentaro Hitomi, Hiroshi Kuroda, Yukie Ito, Satoshi Yoshimura, Keigo Horie, Satoko Yamada and Yui Sato. THE PSYCHOANALYTIC INTERPRETATION AND THE APPLICATION OF THE RORSCHACH BY BABA METHOD. . 2.THE BORDERLINE PHENOMENA (COEXISTING TYPE) ON THE RORSCHACH – FOCUSING ON W FACE RESPONSES. ISR 23rd Congress of the International Society of the Rorschach and Projective Methods, Geneva Switzerland, July 12th 2022. ABSTRACT BOOK, p84.</p>

2022年	7月	Yukie Ito, Hiroshi Kuroda, Kentaro Hitomi, Satoshi Yoshimura, Keigo Horie, Satoko Yamada and Yui Sato. THE PSYCHOANALYTIC INTERPRETATION AND THE APPLICATION OF THE RORSCHACH BY BABA METHOD. 3.THE COMPREHENSION OF THE RORSCHACH WITH OTHER PSYCHOLOGICAL TEST AND THE COLLATION WITH THE CLINICAL PICTURE. ISR 23rd Congress of the International Society of the Rorschach and Projective Methods, Geneva Switzerland, July 12th 2022. ABSTRACT BOOK, p85.
2019年	5月	黒田浩司“FDを多く示した40代男性事例：内省・自己点検は肯定的なサインか？” 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第25回大会論文集 跡見学園女子大学
2019年	9月	黒田浩司“ORTによる対象関係査定の試み” 日本ロールシャッハ学会第23回大会論文集 京都大学
2018年	9月	黒田浩司“有用な心理テスト解釈を構成するサイエンスとアート” 日本心理臨床学会第37回大会 会員企画シンポジウム3「心理アセスメントにおけるサイエンスとアート」 神戸国際会議場
2017年	10月	黒田浩司“ロールシャッハを学ぶ意欲、使いこなすのに重要なこと、包括システムによるロールシャッハ認定資格” 日本ロールシャッハ学会第21回大会 教育・研修委員会企画ミニシンポジウム「これからの心理アセスメント教育を考える」 札幌国際大学
2017年	7月	Hiroshi Kuroda , Yoshiharu Matsuse, Yasue Takahashi and Noboru Takahashi Preliminary study of application of Object Relations Technique to Japanese students. The 22th Conference of International Society of the Rorschach and Projective Techniques. In Paris, France.
2016年	11月	黒田浩司“ORTによる対象関係査定の試み” 日本ロールシャッハ学会第20回大会論文集 国際交流センター
2015年	11月	長田庸子・黒田浩司“SCT(文章完成法テスト)にあらわれる抑うつ傾向” 日本ロールシャッハ学会第19回大会論文集 大正大学
2015年	11月	土橋拓真・黒田浩司“精研式文章完成法を用いた自我発達水準の測定” 日本ロールシャッハ学会第19回大会論文集 大正大学
2014年	11月	黒田浩司“ロールシャッハ法の所見を心理療法に活用するのが難しかったケース” 日本ロールシャッハ学会第18回大会論文集 p31 佛教大学
2014年	8月	望月梨央・黒田浩司“ストーカー行為に関する基礎研究——複視経路・等至性モデル(TEM)を用いた加害者研究——” 日本心理臨床学会第33回大会発表論文集P511
2014年	7月	Hiroshi Kuroda Rorschach responses of social withdrawal syndrome named “Hikikomori” in Japan.. The 21th Conference of International Society of the Rorschach and Projective Techniques. In Istanbul,Turkey.
2013年	11月	深澤桂樹・小林あずさ・手川真由美・黒田浩司 “統合失調症者に見られるSCTの特徴” 日本ロールシャッハ学会第17回大会抄録集 Pp48. 11月花園大学
2013年	8月	細川明子・黒田浩司“「看護師のやりがい」に関する臨床心理学的研究” 日本心理臨床学会第32回大会発表論文集 Pp360 パシフィコ横浜
2013年	8月	山本智美・黒田浩司 “うつ病休職者のリワークプログラムにおける心理的变化” 日本心理臨床学会第32回大会発表論文集 Pp413 パシフィコ横浜
2013年	7月	細川明子・黒田浩司 “「看護師のやりがい」に関するコミュニティ心理学的研究” 日本コミュニティ心理学会第16回大会発表論文集Pp64-65. 慶應義塾大学日吉キャンパス
2013年	6月	黒田浩司 “包括システムに力動的解釈を統合する試み” 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第19回大会発表論文集 Pp28-29. 山梨英和大学
2012年	9月	黒田浩司・森稚葉・奥村弥生 “効果的な心理臨床教育・訓練システムに関する研究(8)―初学者の体験をコンテインする教育・訓練システムの研究” 日本心理臨床学会第31回大会 愛知学院大学

学会等発表・役員参加

2012年	9月	森稚葉・黒田浩司・奥村弥生 “効果的な心理臨床教育・訓練システムに関する研究(9)―初学者の体験をコンテインするためのスーパービジョンの検討” 日本心理臨床学会第31回大会 愛知学院大学
2012年	9月	高橋理恵・黒田浩司 “児童養護施設における施設心理士導入の実際Ⅲ” 日本心理臨床学会第31回大会 愛知学院大学
2012年	9月	小宮山志保・黒田浩司 “自死に関する臨床心理士の研修と自死のとりえ方の実態” 日本心理臨床学会第31回大会 愛知学院大学
2011年	9月	黒田浩司・森稚葉・小野綾子・篠原恵美 “効果的な心理臨床教育・訓練システムに関する研究(4)―ケースカンファレンスを学びの多いものにするためのアクションリサーチの試み―” 日本心理臨床学会第30回大会 福岡国際会議場(九州大学)
2011年	9月	高橋理恵・黒田浩司 “児童養護施設における施設心理士導入の実際Ⅱ” 日本心理臨床学会第30回大会 福岡国際会議場(九州大学)
2011年	9月	深澤圭樹・小林あずさ・手川真由美・黒田浩司 “SCTから見る対象関係―発達障害者・境界例者に特徴的な反応に着目して―” 日本心理臨床学会第30回大会 福岡国際会議場(九州大学)
2011年	7月	Hiroshi Kuroda W Face Response of Borderline personalities on the Rorschach Test. The 20th Conference of International Society of the Rorschach and Projective Techniques. In Tokyo, Japan.
2011年	7月	飯島文子・黒田浩司 “臨床の場で『人を育てる』ということ―プリセプターの新人看護師指導プロセス分析” 日本コミュニティ心理学会第14回大会上智大学
2011年	7月	国際ロールシャッハおよび投映法学会第20回東京大会組織委員
2010年	10月	黒田浩司”精神病的不安を抱える青年期事例”日本ロールシャッハ学会第14回大会、帝塚山大学
2010年	9月	黒田浩司・森稚葉・小野綾子・田中健夫・馬場禮子”効果的な心理臨床教育・訓練システムに関する研究(3)”日本心理臨床学会第29回大会、東北大学
2010年	7月	黒田浩司”地域がんセンター緩和ケアチームとのコラボレーション”日本コミュニティ心理学会第13回大会 立教大学
2009年	10月	黒田浩司”境界性人格のSCTにみられる対象関係”日本ロールシャッハ学会第13回大会、大妻女子大学
2009年	9月	黒田浩司”変化することへの強い抵抗を示すクライアントの心理療法”日本心理臨床学会第28回大会、東京国際フォーラム
2009年	7月	黒田浩司”医療現場におけるコミュニティ支援プログラムの展開の試み;地域がんセンター緩和ケアチームとのコラボレーション”日本コミュニティ心理学会第12回大会、東北大学



<p>続き</p>	<p>2008年 10月 黒田浩司“自己臭恐怖を訴える青年期事例”日本ロールシャッハ学会第12回大会、新潟青陵大学</p>
<p>受託研究の実績 共同研究の・</p>	<p>2015年 11月 山梨市生涯学習課 山梨市生涯学習計画調査 2019年 11月 甲府市男女参画課 結婚観醸成プロジェクト 2021年 8月 日本女性会議弾4分科会交付金</p>
<p>大学院生指導</p>	<p>大学院指導教員(山梨英和大学大学院)</p> <p>2022年度 1. 大学生の就職不安に関する研究:就職活動を始めることができない現象に焦点をあてて</p> <p>2021年度 1. 新型コロナウイルス感染症・(COVID-19)流行を経験した・大学生の心理的影響と適応過程</p> <p>2020年度 1.心理臨床家の専門職アイデンティティ発達に関する研究:児童養護領域に勤務する心理臨床家を対象にして</p> <p>2019年度 1. 青年期の交際関係における暴力に関する心理学的研究</p> <p>2018年度 1. 高齢者臨床領域におけるコミュニティ支援の可能性 2. 描画法の青年期の社交不安症へのアセスメント活用</p> <p>2017年度 1. 老年期の自尊感情と本来感に関する研究:心理的・社会的要因、ソーシャルサポートの授受評価要因などとの関連において 2.ORTの基礎研究</p> <p>2016年度 1.慢性身体疾患を有する人の自己感に関する研究 2.小学校における学生ボランティアが活動することで生じる相互作用に関する研究</p> <p>2015年度 ORTによる対象関係の査定について</p> <p>2014年度 1.SCT(文章完成法)にあらわれる抑うつ傾向 2.SCT(文章完成法)を用いた自我発達水準の測定</p> <p>2013年度 1.ストーカー行為に関する基礎的研究 2.少年の動物虐待に関する基礎研究 3.緩和ケアに従事する医療従者の心理的苦悩に関する研究</p> <p>2012年度 1.「看護師のやりがい」に関する臨床心理学的研究 2.痴呆性高齢者に対するコラージュ療法の導入が与える効果 3.うつ病を中心とした気分障害患者のリワークプログラムにおける心理的变化</p> <p>2011年度 1.自死に関する臨床心理職の研修とスティグマの実態</p> <p>2010年度 1.児童養護施設における心理的援助と他職種との連携:施設心理士の発展を目指して 2.臨床の場で『人を育てる』ということ:プリセプターの新人看護師指導プロセス分析</p>
<p>対研する能力に</p>	<p>投映法心理検査によるアセスメントについては学界において中心的役割を果たすと期待されており、国際学会の組織員や国際学会誌の編集委員、ワークショップや基礎講座の講師の依頼を多く受けている。 臨床心理的地域援助においてもこの領域の第一人者と評価されており、他大学や家庭裁判所調査官の研修などにおいて講演や研究報告の依頼を何度か受けている。</p>

## サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2022年	4月 サイコロジカルサービス領域長、心理臨床センター所長代行
	2021年	4月 サイコロジカルサービス領域長、山梨英和COC+推進室コーディネーター、COC+CCRCコース代表、心理臨床センター所長代行
	2020年	4月 サイコロジカルサービス領域長、山梨英和COC+推進室コーディネーター、COC+CCRCコース代表、心理臨床センター所長代行
	2019年	4月 山梨英和COC+推進室コーディネーター、COC+CCRCコース代表、地域連携主任、メディア情報担当長、情報メディアセンター改革検討委員
	2018年	4月 山梨英和COC+推進室コーディネーター、COC+CCRCコース代表、地域連携主任、メディア情報担当長
	2017年	4月 山梨英和COC+推進室コーディネーター、COC+CCRCコース代表、地域連携主任
	2016年	4月 学長特別補佐(大学評価・地域連携推進担当)、FD・SD推進委員、山梨英和COC+推進室コーディネーター、COC+CCRCコース代表
	2015年	4月 学長特別補佐(大学評価・地域連携推進担当)、FD・SD推進委員長、大学院FD推進委員長、山梨英和COC+推進室コーディネーター、COC+CCRCコース代表
	2014年	4月 学長特別補佐(大学評価・地域連携推進担当)、FD・SD推進委員長
	2013年	4月 学長特別補佐(学生サポート担当)、FD・SD推進委員会委員
	2012年	4月 学長特別補佐(学生サポート・学生会館建設担当)、FD・SD推進委員会委員
2011年	4月 心理臨床センター長、学生部長、広報委員会、進路支援委員会	
2010年	4月 心理臨床センター長、入試委員会、FD推進委員会	
アドバイザー活動実績	2022年度は大学院生指導教員、卒業研究、専門ゼミナール、基礎ゼミナールで総計34名の担当学生のアドバイザーを務めた。構成的エンカウンターグループなどの手法を用いて学生間のコミュニケーションを促進したり、異なった学年間の交流を活性化させる工夫をしている。また、希望する学生には地域連携活動にも積極的に送りだし、活動を支援している。	
後進育成活動実績	学会におけるワークショップや家庭裁判所調査官の研修において、面接やアセスメントに関する研修の講師を務め、後進育成活動を行っている。また、2012年度より山梨ロールシャツハ研究会を主宰し、ロールシャツハ法を中心とした臨床心理アセスメントの専門家の育成を継続している。	
社会貢献活動	(1)講演会	
	2021年	3月 黒田浩司「コロナ禍における支えあい～傾聴の重要性を学ぶ」笛吹市市民活動・ボランティアセンター講演会
	2020年	11月 黒田浩司「更生保護における地域支援の必要性とかかわりの工夫対象者の変化や成長をもたらすために」山梨更生保護大会講演会
	2020年	8月 黒田浩司「災害時におけるメンタルヘルス:ストレスとの向き合い方～新型コロナウイルス感染症増大の中で」甲州市立大和和小中学校PTA親子オンライン授業(学習会)講演
2020年	2月 黒田浩司「CCRC:サ高住(サービス付き高齢者住宅)に住む選択肢」COC+やまなし未来創造教育プログラムCCRCコースMiraiサロン 人生100年時代60代からの住処をどう考えるか	

社会貢献活動

2019年	11月	黒田浩司「自殺予防研修会(一般職員向け):対策の必要性和上司・同僚としてできること」笛吹市自殺予防対策職員研修会
2019年	10月	黒田浩司「自殺予防研修会(管理職向け):対策の必要性和上司・同僚としてできること」笛吹市自殺予防対策職員研修会
2019年	10月	黒田浩司「現代における地域援助(コミュニティ支援)の必要性和その方法」甲府市少年鑑別所拡大研修会
2019年	7月	黒田浩司「人が変われるときに生じていること」甲斐清和高等学校通信制講演会
2019年	3月	黒田浩司「コミュニティ支援の理念と実践」甲府少年鑑別所拡大研修会
2019年	2月	黒田浩司「ゲートキーパー養成講座(初級)」笛吹市ゲートキーパー養成講座 笛吹市
2018年	11月	黒田浩司「自殺を考える人の心理とそこのかかわり方」笛吹市職員のための自殺予防研修会
2019年	9月	黒田浩司「事例の理解について」甲府少年鑑別所拡大研修会
2017年	9月	黒田浩司「SCTの臨床的活用」平成29年度茨城県施設心理職・児童相談所心理司合同研修会
2017年	3月	黒田浩司「CCRC超入門」COC+やまなし未来創造教育プログラムCCRCコース CCRC=生涯活躍のまち 入門セミナー
2017年	2月	黒田浩司「地域住民が感じる地域コミュニティへの不安」平成28年度県民コミュニティカレッジ×COC+やまなしMiraiリーダー養成セミナー
2016年	11月	黒田浩司「現代の若者のころをどのように理解するか」南アルプス市平成28年度子ども若者育成支援推進大会講演会
2016年	10月	黒田浩司「人間関係でトラブルをおこさない対処のしかた」山梨県立甲府城西高校平成28年度「しなやかな心の育成」講演会
2016年	7月	黒田浩司「CCRC先進地視察報告:Share金沢について」COC+やまなし未来創造教育プログラムCCRCコース 第2回みらいサロン
2016年	7月	黒田浩司「SCTの臨床的活用」平成28年度茨城県施設心理職・児童相談所心理司合同研修会
2016年	3月	黒田浩司「対話とカウンセリング:死にたいという人とともに歩む」山梨いのちの電話 2015年度相談員養成(公開)講座
2016年	2月	黒田浩司「英国対象関係論の展開:投影同一化の理解と活用」岐阜大学大学院教育学研究科特別セミナー
2015年	6月	黒田浩司「教育相談とは:現代の教育相談に必要とされる実践力」甲府市教育委員会研修会
2015年	7月	黒田浩司「教員のためのカウンセリング入門」甲斐清和高等学校校内研修会
2015年	3月	黒田浩司「生涯学習のための心理学入門」山梨県生涯学習センター生涯学習指導者養成講座
2014年	6月	黒田浩司「教育相談とは:現代の教育相談に必要とされる実践力」山梨県教育相談センター研修会
2014年	2月	黒田浩司「子どもたちと向き合うために」山梨県立塩山高等学校教育相談研修会
2013年	11月	黒田浩司「子どもの笑顔をとりにもどそう!いじめ・不登校・ひきこもり 解決とネットワーク」平成25年度峡東地区人権のための講演会
2012年	10月	黒田浩司「現代社会の家族・若者の心理と諸問題〜カウンセリングの現場から」調停制度90周年記念講演 甲府家庭裁判所

2012年	2月	黒田浩司「英国心理臨床の最新事情」 岐阜大学総合メディアセンター
2012年	1月	黒田浩司「テストバッテリー」家庭裁判所調査官養成課程第7期 後期合同研修 裁判所職員総合研修所(埼玉県和光市)
2011年	4月	黒田浩司「被災者支援の基礎知識」 山梨英和大学心理臨床センター 東日本大震災支援プログラム準備のための研修会
2011年	2月	黒田浩司「テストバッテリー」家庭裁判所調査官補研修、裁判所研修委員研修所
2010年	12月	黒田浩司「自殺企図の高いクライアントのリスクアセスメントとかかわり」山梨英和大学心理臨床センター地域貢献セミナー、山梨英和大学
2010年	9月	黒田浩司「リーダーシップ能力と対人関係能力の育成」群馬県小児医療センター看護部リーダーシップ研修
(2)出前講座		
2023年	3月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 山梨県立身延高校
2022年	11月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 長野県立小諸高校
2022年	8月	黒田浩司「心理検査の世界」 山梨英和大学大学院オープンキャンパス模擬授業
2021年	10月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 山梨県立甲府昭和高校
2021年	8月	黒田浩司「精神分析の世界」 山梨英和大学大学院オープンキャンパス模擬授業
2021年	3月	黒田浩司「心がつらくなるときの対処法ー「臨床心理学の世界」」 山梨県立甲府第一高校
2020年	10月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 山梨県立甲府昭和高校
2020年	6月	黒田浩司「心理検査の世界」山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
2019年	10月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 長野県立岡谷南高校
2019年	8月	黒田浩司「精神分析の世界」 山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
2018年	10月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 山梨県立甲府昭和高校
2018年	9月	黒田浩司「心理学の知見を活かしたコミュニケーション」 山梨英和大学高校生談話室
2018年	8月	黒田浩司「心理検査の世界」山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
2018年	7月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 山梨県立韮崎高校
2017年	8月	黒田浩司「精神分析の世界」山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
2017年	7月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 甲斐清和高校
2016年	12月	黒田浩司「入門心理学ー心理学で何がわかるのか？」 山梨県立甲府西高校

社会貢献活動

2016年	7月	黒田浩司“入門心理学ー心理学で何がわかるのか？”	山梨県立韮崎高校
2015年	11月	黒田浩司“入門心理学ー心理学で何がわかるのか？”	山梨県立山梨高校
2015年	10月	黒田浩司“入門心理学ー心理学で何がわかるのか？”	山梨県立甲府東高校
2014年	11月	黒田浩司“入門心理学ー心理学で何がわかるのか？”	山梨県立山梨高校
2014年	11月	黒田浩司“入門心理学ー心理学で何がわかるのか？”	山梨県立甲府西高校
2013年	9月	黒田浩司“入門心理学ー心理学とは？”	山梨県立甲府第一高校
2012年	8月	黒田浩司“精神分析の世界”	山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
2012年	9月	黒田浩司“入門心理学ー心理学とは？”	山梨県立甲府第一高校
2012年	9月	黒田浩司“心理検査の世界”	山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
2011年	10月	黒田浩司“入門心理学ー心理学とは？”	山梨県立日川高等学校
2011年	10月	黒田浩司“入門心理学ー心理学とは？”	山梨県立甲府昭和高等学校
2011年	7月	黒田浩司“こころの諸問題とその支援方法”	山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
2010年	6月	黒田浩司“こころの諸問題とその支援方法”	長野県立諏訪高等学校
2010年	8月	黒田浩司“こころの諸問題とその支援方法”	山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
(3)公開講座			
2022年	5月	黒田浩司“話を聞くスキルを学ぶ(傾聴)”	山梨英和大学メイプルカレッジプログラム
2021年	5月	黒田浩司“話を聞くスキルを学ぶ(傾聴)”	山梨英和大学メイプルカレッジプログラム
2020年	10月	黒田浩司“臨床心理学による自己探訪”	山梨英和大学メイプルカレッジプログラム
2016年	10月	黒田浩司“臨床心理学による自己探訪”	山梨英和大学メイプルカレッジプログラム
2015年	10月	黒田浩司“臨床心理学による自己探訪”	山梨英和大学メイプルカレッジプログラム
2011年	10月	黒田浩司“現代のコミュニケーションの問題を臨床心理学的に考える”	山梨英和大学メイプルカレッジプログラム
2011年	10月	黒田浩司“震災時にはどのようなことが起きるのか？”	大学コンソーシアムやまなし・県民コミュニティーカレッジ「こころのケア」ー臨床心理士にできること
2010年	10月	黒田浩司“現代のコミュニケーションの問題を臨床心理学的に考える”	山梨英和大学メイプルカレッジプログラム

社会貢献活動

2009年 2月 黒田浩司”こころの病と不応について学ぶ”放送大学茨城学習センター公開講座

(4)学外審議会・委員会等

2022年 10月 甲府市地方創生戦略会議委員

2022年 4月 甲府市子ども権利擁護委員

2022年 4月 キャンパスネットやまなし企画運営委員会

2022年 4月 笛吹市自殺対策計画策定ワーキンググループ アドバイザー

2022年 2月 日本心理臨床学会選挙管理委員(2022年7月まで)

2021年 4月 国際ロールシャッハ及び投映法学会ロールシャッハ100周年大会マッププロジェクト担当委員(2023年1月17日まで)

2021年 4月 甲府市子ども権利擁護委員

2021年 4月 山梨県再犯防止推進計画策定委員会委員

2021年 4月 キャンパスネットやまなし企画運営委員会

2021年 4月 日本ロールシャッハ学会理事(学会誌編集委員、国際交流委員)

2019年 4月 日本女性会議 2021 in 甲府 準備委員(2022年1月まで)

2020年 4月 甲府市子ども権利擁護委員

2020年 4月 山梨県再犯防止推進計画策定委員会委員

2020年 4月 キャンパスネットやまなし企画運営委員会

2019年 7月 日本女性会議 2021 in 甲府 準備委員(2022年1月まで)

2019年 6月 山梨県再犯防止推進計画策定委員会委員長

2019年 5月 甲州市子どもフェスタ実行委員(2018年12月まで)

2018年 11月 甲府市地方創生戦略会議委員(2019年11月まで)

2018年 8月 笛吹市自殺対策計画策定ワーキンググループ アドバイザー

2018年 5月 甲州市子どもフェスタ実行委員(2018年12月まで)

2017年 8月 笛吹市第二次総合計画審議会 副会長(2018年3月まで)

2017年 5月 甲州市子どもフェスタ実行委員(2017年12月まで)

2016年 6月 山梨県生涯活躍のまち・やまなし研究会会長(2017年3月まで)

2016年 5月 甲州市子どもフェスタ実行委員(2016年12月まで)

2013年 8月 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第20回記念大会組織委員(学生ボランティア委員長、プログラム副委員長2014年5月まで)

2013年 5月 日本心理臨床学会 代議員(甲信越・北陸地区 2017年3月まで)

2012年 5月 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第19回大会大会長(2013年6月まで)

2009年 4月 日本心理臨床学会選挙管理委員(2010年3月まで)

2009年 4月 国際ロールシャッハ及び投映法学会第20回日本大会組織員(財務担当2011年8月まで)

2007年 5月 包括システムによる日本ロールシャッハ学会理事(2018年6月まで)

2007年 4月 日本臨床心理士会研修委員(2009年3月まで)

2004年 4月 包括システムによる日本ロールシャッハ学会編集委員(2014年3月まで)

社会 貢 献 活 動	(5)その他		
	2015年	12月	平成27年度甲府家庭裁判所調査官研修会 講師(事例検討会 TAT)
	2015年	2月	平成26年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)
	2014年	6月	平成26年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)
	2013年	6月	平成25年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)
	2013年	10月	平成25年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)
	2012年	6月	平成24年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)
	2012年	10月	平成24年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)
	2011年	10月	平成23年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)
	2011年	6月	平成23年度家庭裁判所調査官専門研修 講師(事例検討)

## 成果と目標

専門的成果	<p>テストバッテリーにおける文章完成法(SCT)の活用に関する研究:投映法心理検査の中では、比較的多く利用されるが、その解釈手続きや信頼性・妥当性が十分に検討されていなかった文章完成法(SCT)に関して、境界性人格、精神病患者、非行少年、発達障害者のデータを収集し、数量的文責と質的分析をおこない、そのアセスメントの有効性について実証的に考察をおこなった。また、ロールシャッハテストや描画法と組み合わせることによって多面的にクライアントを理解する手法についても検討し、より有効なテストバッテリーの活用について考察をおこなっている。</p> <p>臨床心理学的地域支援については地域における実践をいくつか継続しており、心理臨床家が関連する他職種をサポートすることにより、より効果的な地域援助が実践できる可能性を見出している。</p> <p>研究成果に関しては学会発表などを通じて発信しており、その結果、研究成果にもとづく専門家や関連する領域(例えば看護職、福祉職など)からの研修・講演いらいなど幅広く発信している。</p>
専門的目標	<p>投映法によるアセスメントも臨床心理学的地域援助に関しても、研究成果の発表は国内にとどまっており、今後は国際学会での発表や国際的な学会誌への論文投稿を目標としている。今後は、この領域における国際学会にも深く関与してゆきたいと考えている。</p> <p>また、臨床心理学的地域援助や心理教育に関しては山梨の地を拠点とした活動をおこなってゆきたいと考えている。一つのテーマとして「自死問題」をとりあげ、この問題にどのような地域支援ができる可能性があるかについて検討している。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------